

平成17年度東北農政局長賞

青森県三戸郡田子町新田

「新田自治会」

位置図



地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落	
地区の性格	山間農業地域	
農家率	71.4%	(内訳) 総世帯数 42戸 農家数 30戸
販売農家数	30戸	(内訳) 専業農家 3戸 Ⅰ兼農家 3戸 Ⅱ兼農家 24戸
主要作物 ()内産出額	たばこ (21百万円) 水稲 (9百万円) そば (4百万円)	
農用地の状況	耕地計 42ha (内訳) 田 32ha 畑 10ha	
	耕地率 12.7%	農家一戸当たり農用地面積 1.4ha

【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 人口の減少や高齢化に伴い集落の活力が減退する中、平成7年度のほ場整備を契機に、農業振興と集落の活性化方策について自治会で検討、結果、転作作物のそばの栽培と地域に伝わる水車（からうす）、そば打ち技術、豊かな自然環境などの地域資源を活用したむらづくりを始める。
- ・ 平成13年に「新田集落ビジョン」を策定し、地域資源を活用したむらづくりの方向性を一層明確化し、各取組を展開。

【推進体制】

- ・ 「新田集落ビジョン」の地域資源を活用した「新田らしい、新田でしか味わうことの出来ない暮らし」を作り上げるため、自治会が中心となって集落内の生産組織やイベント実行運営組織と連携を図りながらむらづくりを推進。

【生産面における寄与状況】

- ・ ほ場整備を契機に水稲作業受託組織を設立、農地の利用集積を図るとともに、低コスト化に取り組む。
- ・ 遊休農地化しやすい山間地の転作田でそばの栽培に取り組むため作業受託組織を設立、集約的栽培の実現により生産性が向上、各イベントでの利用を通じて、栽培面積を2haから13haに拡大。
- ・ 水稲作業の省力化に伴う余剰労働力を利用したそば栽培やそばの製粉作業を60～70歳の女性が担うなど集落内における労働力を有効に活用。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 「水車そばまつり」をはじめ地域資源を活かした四季折々のイベントを開催。
- ・ イベントの開催を通じて、住民相互の連帯感が強化され、地域資源活用の創意工夫意欲が向上。
- ・ 集落のシンボルである水車の保全や花壇整備などの景観づくりを実施。



江戸時代に造られたと伝わる水車(集落では「からうす」「水車そばまつり」では700食分の手打ちそばを準備する)



イベントのスタッフとして活躍する集落の若者たち



各イベントではそばの他に様々な郷土料理も提供される。